

# キャリア教育新聞

No.11

2025年12月  
発行

塩尻市共創共学  
プラットフォーム

## 今年度の新たな取り組み

今年度のいきはたトークは、昨年度の先輩の人生を紙芝居で紹介する形式から大きく形を変え、哲学対話を取り入れたプログラムへとアップデートした。このきっかけは先生からの「子どもたちが受け身ではなく、自分の考えを共有したり、他の人の考えを聴く場にしたい」という声であった。正解のない問いについて語り合う哲学対話は生徒の主体性をより引き出すものと期待された。

哲学対話は、日常の気づきや素朴な疑問を起点に、参加者が対等な立場でじっくり考えを交わしていく対話方法であり、結論を出すことではなく、さまざまな人の考えに耳を傾けながら視野を広げていくことを大切にしている。対話を行うにあたっては、「①何を言ってもよい②他者の意見を否定しない③発言せずに聞いているだけでもよい④互いに問いかけるようにする⑤知識ではなく自分の経験にもとづいて話す⑥話がまとまらなくてもよい⑦途中で意見が変わってもよい⑧分からなくなってもよい」というルールを共有した。

事前に九名の先輩は、自分が語りたい問い（テーマ）を生徒に投げかけ、生徒達は関心のある問いに考えを持ち寄った。具体的には、「夢を持つってどういうこと?」「大人になるってどういうこと?」「お金持ちは幸せなのか?」などの問いが投げかけられた。生徒からは、「先輩たちみんなそれぞれの考えを持っていて、全く同じ考えの人が一人もいなくて面白かった」「正解がない質問だったので自分でどう答えを見つけていくかが大切だと思った」などの感想があった。

## 社会人約六十名が授業に参画 一対一の対話・いきはたトーク

令和七年十一月二十日、丘中学校で「いきはたトーク」が開催された。対象は、進路選択を翌年に控えた二年生一四四名。親や先生などの「タテの関係」、同級生などの「ヨコの関係」ではない、「ナナメの関係」である人生の先輩（地域の社会人・大学生・高校生）と中学生が一対一で対話をするプログラムで昨年度に続き二回目の開催。先輩方は傾聴について学び、自身の人生を振り返る等、二時間にわたる事前研修を受けて臨んだ。生徒にとって「地域にも自分の話を真剣に聴いてくれる大人がいる」「多様な生き方や価値観に触れ視野や夢が広がった」と思える経験となっていることが期待される。



## 大人になるのが楽しみになった



生徒の声  
一例

心が軽くなり、将来が楽しみに思えた。大変なことがあっても、その先に楽しいことがあるとわかった。またこのような機会を設けてほしい。高校生になったら次は先輩として参加したい。



ご協力いただいた先輩

生徒の話を聞きながら自分を見つめ直すきっかけにもなり、想像以上に学ぶことが多かった。生徒の素直な気持ちにハッとさせられることが多く、大人にとってもいい時間になると感じた。



丘中学校  
二学年総合担当  
谷中先生

1対1の対話に加え、哲学対話を行ったことで、生徒たちが視野を広げ、未来に希望をもつ姿が見られた。前のめりな姿勢や、対話を終えた後の清々しい笑顔をみて通常授業では得られない学びが多くあったのだと強く感じた。



### ◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGURU）  
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）